

文：高瀬徹朗 *Takase Tetsuro*

本誌放送アナリスト・ワンセグウォッチャー

今クールはテレビドラマが好調らしい。15%超えは当たり前、中には20%以上の高視聴率を稼いだ作品もあるとか。評判に誘われて何か見始めたが、久しぶりにドラマを見ようと思うと「次週を楽しみにする」ことが少々わずらわしい。地上波なら連日、CSならまとめて再放送してくれるため、1週間も待つことに慣れていないためだ。とはいえ久々のドラマ視聴、この「待つ楽しみ」も含めて堪能すべきだろう。それではチェック、スタート。

好調のドラマ2本

日テレ『妖怪人間ベム』とTBS『南極大陸』をチェック ポイントは視聴者プレゼント!?

『ベム』は無難なデータ放送

日本テレビ系土曜21時から放送中のドラマ『妖怪人間ベム』。60年代後半に初放送されて以来、再放送などを通じて度々人気を集めた同名アニメの実写版だ。意外にも、と言っては失礼だが、この種の実写版ドラマにしては極めて好調な視聴率を誇っている。

さて、まずはワンセグデータ放送から。メニューは「ストーリー」「キャスト」「スタンプラリー/クイズ」「携帯サイト・HP」の4つ。トップ画面はこれら4項目と主演3人の写真が掲載されているだけというシンプルな構成にとどまっている。

当然気になるのは「スタンプラリー/クイズ」。毎週ひとつずつスタンプを獲得し、「5話分」さらには「全話分」集めると抽選で番組関連グッズがもらえるそうだが……ワンセグ対応はなし。他のメニューも基本、固定とコンパチもしくは縮小版なので、このまま固定のチェックへ移る。

固定データ放送では、その「プレゼント・スタンプラリー」を最上位に配置。スタンプは青ボタンを押すだけで完了。残念ながらスタンプは当日分しかないが、とりあえず赤ボタンで応募ページへ遷移する。

どうやら、5つスタンプがたまっているパスワードが表示されるようだ。「全話分」も同様。これをメモして、QRコードから応募フォームを立ち上げて入力・送信するだけでいい。つまりシステムに結線は必要としておらず、あくまで端末情報を判断してパスワードを表示する仕組みらしい。

メニュー「キャスト」は、写真付き人物



「スタンプラリー」。1回視聴ごとに1つたまると5つためると自動でパスワードが表示されるらしい



「南極大陸」のミニゲーム。写真のとおり、気付いたら終了していた……

関連図付き。以前であればワンセグデータ放送でも同種コンテンツを見たことがあるが、いまでは固定専用サービスになってしまったらしい。少々寂しい話である。

「クイズ」は当日の放送から出題されるようだが、なんと、ストーリー進行よりも早くネタバレしてしまっている。間違えてもすぐに正解が出てくるので、参加するだけでこの先の展開が「多少ながら」予測できる。これもある意味、データ放送利用率の低さを物語っているのだろうか。

多少気になる点はあるものの、基本的には無難な内容と言える。

主役は本編『南極大陸』

TBS開局60年記念ドラマ『南極大陸』。積極的なPR活動からくる事前の評判も上々で、こちらも視聴率は好調だ。

残念ながらワンセグデータ放送はなし。映像表現の美しさも番組の特徴なので「大きなハイビジョンテレビで見てほしい」という放送局側のメッセージ、だろうか。

固定データ放送のメニューは「STORY」「CAST」「NEWS」「PRESENT」。細か

いと「あらすじ」「出演者」「お知らせ」「プレゼント」と日本語表記が変わる。カーソル位置はわかりやすいが、少々ややこしい。

ポイントとなるコンテンツは「プレゼント」。もう少し詳しく言うと、プレゼント応募するためのミニゲーム(?)だ。内容は決定ボタンを押してタロ&ジロと遊ぼう、というもの。放送1回ごとに「なかよしポイント」がたまり、このポイントを利用してプレゼント応募に参加できる。

このミニゲーム、正直いってよくわからないうちに終わってしまった。「遊び方」を確認しようと決定ボタンを押すと、画面には「来週もまたあそんで欲しいワンっ!」と、どうやらゲームが終了してしまった様子。確かに100ポイントはたまっている。いまいちどう楽しめばいいのかわからないコンテンツと感じた。

「南極大陸」はプライベートで毎週見ているドラマだが、データ放送を確認したのもミニゲームを利用したのも今回が初めて。次週も利用するか、と聞かれれば微妙。番組の完成度が高いだけに、データ放送がいまひとつなのも仕方がない、としておく。 